

# アグリマイシン®-100

(AGRIMYCIN-100)

登録番号 第3316号

種類名 オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤  
oxytetracycline・streptomycin

殺菌剤分類 41, 25

性状 淡黄褐色水和性粉末

有効年限 4年

有効成分 アルキルトリメチルアンモニウムカルシウムオキシテトラサイクリン 2.8% (オキシテトラサイクリンとして1.5%)  
ストレプトマイシン硫酸塩 18.8% (ストレプトマイシンとして15.0%)

毒性 普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

包装 100g×60袋、500g×20袋、1kg×10袋(北海道限定)

## ■特長

1. 細菌に対して高い抗菌活性をもつ2種類の抗生物質オキシテトラサイクリン、ストレプトマイシンを効果的に配合した複合製剤です。これらの有効成分はともに細菌に対する作用点が異なるため、耐性がつきにくい製剤となっています。
2. それぞれ抗菌範囲が異なる2種類の有効成分を配合しているため、単剤よりも抗菌範囲が広い製剤となっています。

## ■適用病害名及び使用方法

(2020年11月25日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	オキシテトラサイクリンを含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数	使用方法
りんご	枝枯細菌病	2,000	200~700 ℓ/10a	収穫60日前まで	3回以内	3回以内	3回以内	散布
なし				収穫75日前まで				
もも	せん孔細菌病	1,500		収穫60日前まで	2回以内	5回以内	2回以内	
うめ	かいよう病	1,000		収穫90日前まで	3回以内	4回以内		
すもも	黒斑病	1,500		収穫30日前まで				
キウイフルーツ	花腐細菌病 かいよう病	1,000		落花期まで	3回以内	3回以内	4回以内 (樹幹注入は1回以内)	
ばれいしょ	疫病	1,000~1,600	100~300 ℓ/10a	収穫3日前まで	5回以内	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)	5~10秒間 種いも浸漬
	軟腐病							40~100
キャベツ	黒腐病 黒斑細菌病	2,000	100~300 ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	2回以内	2回以内	散布
はくさい	軟腐病 黒斑細菌病	1,500~3,000			3回以内	4回以内	3回以内	
					2回以内	2回以内	2回以内	
レタス	腐敗病	2,000		収穫7日前まで	5回以内	5回以内	5回以内	
たまねぎ	軟腐病	1,000			3回以内	3回以内	3回以内	
にんにく	春腐病			250~500	収穫30日前まで	6回以内	6回以内 (種いも浸漬は1回以内)	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)
こんにゃく	葉枯病 腐敗病	植付前	-					

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	オキシテトラサイクリンを含む農薬の総使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数	使用方法
ほおずき	斑点細菌病	1,000	100~300 ℓ/10a	発病初期	3回以内	3回以内	4回以内	散布
シクラメン	葉腐細菌病			葉組み時 鉢上げ時又は鉢替え時	8回以内 (但し土壌 灌注は 4回以内)			
たばこ	野火病 角斑病	1,500	100~180 ℓ/10a	収穫3日 前まで	2回以内	2回以内	-	散布
	吊り腐れ (空洞病菌による)空洞病	1,000~ 1,500						
	疫病	1,000						
桑	縮葉細菌病	500	200~700 ℓ/10a	-	3回以内	3回以内	-	散布
西洋芝 (ベントグラス) (生産圃場)	かさ枯病		0.5ℓ/m <sup>2</sup>	発病前~ 発病初期	8回以内	8回以内		

### △ 効果・薬害などの注意

- 石灰硫黄合剤との混用はさけ、また、ボルドー液と混用する場合は、使用直前に混合してください。
- 本剤の使用により、薬害としてクロロシス（黄化現象）を生じることがあります。特に高温多湿時には薬害を生じやすいので、留意の上散布してください。
- はくさいにおいては、高温時又は幼苗期には薬害の影響が大きいので、この時期の使用はさけてください。
- ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意してください。
  - 萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には、萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温の低い地域では注意してください。
  - 浸漬処理の場合、浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。
  - 散布の場合は、種いもを床等に十分に拡げ、種いも 100kg 当り 2.5～3.0L の割合で種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布してください。
  - 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させてください。
  - 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分乾いてから行ってください。
  - 薬剤処理した種いもは、食糧又は飼料には使用しないでください。
- なし及びりんごに対しては、重複散布や多量散布は薬害を生じる場合があるので、所定の希釈倍数を厳守してください。
- たばこの角斑病に対しては、発生初期に時期を失ないように散布してください。
- シクラメンの葉腐細菌病に対する土壌灌注の使用液量は、直径 15～20cm の鉢が基準であり、植木鉢の大きさにより適宜増減してください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

### △ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 使用の際は使用に関係のない者が作業現場に近づかないよう配慮してください。
- かぶれ等を生じた場合には医師の手当を受けてください。

**水産動植物への影響：**使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

**保管：**直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管してください。